

【開講日】 令和 2 年 5 月 20 日 (水)

三鷹サテライト教室

文化

三鷹

0201040

【連続講座】 中世の人物像

—文学と歴史からのアプローチ— 第二弾

講座概要	文学的視点と歴史学的視点から中世の人物の歴史を紐解き、中世社会を考え直す講座です。		
講座No.	日 程	講 師	タイトル
0201040	全講座 (7 回)		
0201040a	5 月 20 日 (水)	本学教授・日本古文書学会理事 漆原 徹	日野富子
0201040b	5 月 27 日 (水)	日本女子大学名誉教授 醍醐寺文化財研究所研究員 永村 眞	義演准后 —醍醐の花見と教学復興—
0201040c	6 月 3 日 (水)	本学教養教育リサーチセンター研究員 東京大学史料編纂所非常勤職員 生駒 哲郎	もののべのもりや 中世の物部守屋像
0201040d	6 月 10 日 (水)	本学准教授 岩城 賢太郎	建礼門院徳子 —六道語りを讀む—
0201040e	6 月 17 日 (水)	本学非常勤講師 永田 英理	江戸時代における源義経伝説 —西鶴・芭蕉・草双紙—
0201040f	6 月 24 日 (水)	本学教授 三浦 一郎	歌舞伎『勧進帳』の弁慶と富樫 —謡曲「安宅」と比較して—
0201040g	7 月 7 日 (火)	本学非常勤講師・武蔵野学院大学教授 高橋 恵美子	『太平記』に描かれる足利直義像
曜 日	水曜日 (7 月 3 日は火曜日)		
時 間	15 : 00 ~ 16 : 30 (6 月 10 日は 13 : 00 ~ 14 : 30)		
定 員	各 50 名 (単独講座と合算)		
受 講 料	* 全講座 (7 回) お申込み 10,000 円 (全 7 回) * お好みの講座を選んでお申込み 1,500 円 (1 講座につき)		
開講場所	三鷹サテライト教室 7F 大教室		

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学

お問い合わせ TEL 042-468-3222
FAX 042-468-3211

開室日: 月 ~ 金曜日 9:30~18:00
土曜日 9:30~15:30 (祝日を除く)

武蔵野大学 地域交流推進室

〒202-8585 西東京市新町1-1-20
www.musashino-u.ac.jp

担当講師	講義内容
講座No. 0201040a	日野富子
本学教授・日本古文书学会理事 漆原 徹	日本史上悪名高い女性である日野富子の人物像を、具体的な事件の関与について説明しながら解説していきます。富子は足利将軍義政の正室として、応仁の乱の勃発に少なからず関与しています。富子と義政の間に男子が生まれなかった当初、富子の妹が嫁いでいた義政の弟義視を将軍に擁立しようとし、実子義尚が生まれると義視を排除しようとしたのです。応仁の乱後も義尚が若死にすると、義植、義澄と次々と将軍擁立と対立を繰り返しました。また応仁の乱では、戦費調達に奔走する大名に金の貸付を行い、巨額な利益を得たことも知られています。関所を設けてその関銭収入を得ていたことで、一揆が関所を破壊したこともありました。また夫足利義政の乳母を竹生島に追放して自害させ、また側室四人をすべて追放するなど嫉妬深い女性の側面も見られます。しかし文明三年には、後土御門天皇と密通の噂が立つほど義政との関係は冷たくなりました。一方では寺社や朝廷への献金を行っていたこともあり、人物像の見直しを提案する近年の研究もあります。
講座No. 0201040b	義演准后 —醍醐の花見と教学復興—
日本女子大学名誉教授 醍醐寺文化財研究所研究員 永村 眞	安土桃山時代から江戸時代前期にかけて、醍醐寺三寶院門跡の義演准后は、さまざまな側面から醍醐寺の再建、真言宗の再興に尽力しました。特に江戸時代に広大な伽藍復興と、真言宗教団の大きな発展は、義演准后の関わり無くして語れません。醍醐の花見に象徴される豊臣秀吉との交流のもとで、醍醐寺は広大な寺領を確保し、下醍醐の伽藍整備を急速に進めました。そのご縁は息香頼にも引き継がれ、上醍醐の堂宇が再建されます。また徳川家康・秀忠とも緊密な関わりをもち、その後援のもとに、江戸時代の真言宗教団内で醍醐寺の優越した位置が保証され、かつては上醍醐寺の寺僧集団により支えられた修験道が、醍醐寺三寶院門跡の支配下に置かれ、醍醐寺は五ヶヶ寺に及ぶ末寺を擁する大本山となりました。そして広大な寺域と寺領を持ち、多くの末寺を配下に置く本山醍醐寺において、その立場に相応しい学術的な整備を率先して進めたのも義演准后であり、寺内の経巻・聖教の保存、真言密教の教相・事相の興隆、顕密兼学の復活、修験道の発展を実現したわけで、その多面的な活動をたどることにします。
講座No. 0201040c	<small>ものへのもりや</small> 中世の物部守屋像
本学教養教育リサーチセンター研究員 東京大学史料編纂所非常勤職員 生駒 哲郎	大陸からもたらされた仏教ですが、『日本書紀』には、有名な仏教を崇拝すべきか、しないべきか、という蘇我氏・聖徳太子と物部氏との争いがあった記事があります。それがどこまで史実なのか、という問題はありますが、中世において、『日本書紀』に基づく仏教を崇拝すべきではないという物部守屋像が復活します。そうした守屋像は「仏敵（ぶつてき）」として語られます。大寺院などが焼失した際、それは仏敵守屋の仕業だと語られるのです。そうした中世に形づくられたイメージが現在における物部守屋のイメージでもあります。さらに、物部守屋像は、中世の聖徳太子信仰と実は密接に関係します。聖徳太子と物部守屋との争いが、中世の武士の合戦に準えることがあります。本講座では、武士の聖徳太子信仰という視点で、中世の物部守屋像の意味を考えたいと思います。
講座No. 0201040d	建礼門院徳子 —六道語りを読む—
本学准教授 岩城 賢太郎	『平家物語』『源平盛衰記』等に収められた建礼門院徳子の六道語りの本文を中心に、平清盛・時子の娘としての徳子、平宗盛・知盛ら平氏公達の兄妹としての徳子、高倉天后皇・安德天皇母の国母としての徳子と、様々な立場・側面から、時代の画期にあった女性の生涯を、受講生の皆様と読み解いてみたいと思います。
講座No. 0201040e	江戸時代における源義経伝説 —西鶴・芭蕉・草双紙—
本学非常勤講師 永田 英理	「判官びいき」ということばがあるように、悲劇の英雄である源義経は、昔から今にいたるまで、日本人の心をとらえてやまない人物であるといえます。江戸時代の人々にとっても、義経は愛すべきヒーローでありました。その姿は、小説・詩歌・絵画・演劇などにおいて、さまざまなかたちで取り上げられ、ときに悲劇的に、ときにはユーモラスなかたちで描き出されているのです。本講座では、江戸時代における「源義経伝説」のさまざまな展開を紹介します。とくに有名なのは、文楽や歌舞伎の「義経千本桜」だと思いますが、今回は読み物の世界に限って、井原西鶴の浮世草子『西鶴諸国ばなし』、松尾芭蕉の『奥の細道』、そして草双紙（絵本）の『義経島めぐり』を取り上げてみたいと思います。江戸時代の人々が新たに創り上げた義経主従の姿を、一緒に覗いてみませんか。
講座No. 0201040f	歌舞伎『勸進帳』の弁慶と富樫 —謡曲「安宅」と比較して—
本学教授 三浦 一朗	歌舞伎『勸進帳』はいわゆる歌舞伎十八番の一つで、三世並木五瓶作、天保十一年（1840）三月江戸河原崎座初演。初演時の弁慶を五世市川海老蔵（前・七世団十郎）が、富樫を二世市川九蔵（後の六世団蔵）が演じました。兄頼朝と不和になり追われる身となった義経が、平泉の藤原秀衡を頼って京都から奥州へと落ちていく途中、関所で関守に見咎められる一件は、まず中世の軍記物語『義経記』巻七に越前国（今の福井県）愛宕三の口の関でのこととして見え、次いで謡曲「安宅」では舞台を加賀国（今の石川県）安宅の関に移して、独立して作品化されました。歌舞伎『勸進帳』はこの謡曲「安宅」に基づいて作られています。ただし歌舞伎『勸進帳』では、謡曲「安宅」の設定や表現、展開を大筋で踏襲しながらも、要所要所に改変や独創を盛り込み、原典とは大きく異なる弁慶像、富樫像が描き出されます。今回は歌舞伎『勸進帳』の脚本を具体的に取り上げ、主に謡曲「安宅」の設定や表現と比較検討することを通じて、弁慶や富樫の姿が原典と比べてどのように改変されているのか、そこに原典とは異なるどのような人間像とドラマが表現されているのかを考えてみたいと思います。参考図書：『歌舞伎オンステージ 勸進帳 毛抜 暫 鳴神 矢の根』白水社
講座No. 0201040g	『太平記』に描かれる足利直義像
本学非常勤講師・武蔵野学院大学教授 高橋 恵美子	南北朝の争乱期の様子を描いた『太平記』には、様々な武将の姿が描かれますが、鎌倉幕府の打倒に大きな影響を与え、後に後醍醐天皇を袂を分ち南北朝の争乱を引き起こす足利尊氏を影で支えた、弟直義の描写を無視することはできません。今川家に伝わる『難太平記』によれば、『太平記』執筆過程において密かに直義の閲覧が行われ、記事の編集加除の指示がなされていたことがわかっていますが、その直義自身の記述については、『太平記』はその死までを追って描いています。本講座では、『太平記』に描かれた足利直義の足跡を追い、『太平記』がどのように彼を評価していたかを確認します。